

# 日本周辺国際魚類資源調査 (要約)

和田由香

## 目的

国連海洋法条約に基づき、公海を回遊しているマグロ類及びサメ類の科学的データを補完するための調査を行う。

## 材料と方法

### 1. クロマグロ

#### (1) 漁獲状況調査

2013年1月～12月に調査対象とした図1に示す8地区にある漁業協同組合等（新深浦町漁業協同組合岩崎支所、深浦漁業協同組合、小泊漁業協同組合、三厩漁業協同組合、大間漁業協同組合、尻労漁業協同組合、六ヶ所村海水漁業協同組合、八戸みなと漁業協同組合及び(株)八戸魚市場）から水揚げ伝票を入手し、月別、漁法別、銘柄別に漁獲量を取りまとめた。

#### (2) 生物測定調査

2013年1月～12月に調査対象とした図1に示す深浦漁業協同組合、三厩漁業協同組合において、漁協職員が測定した尾叉長、体重データを入手し、月別にとりまとめた。また、大間漁業協同組合において、(独)水産総合研究センター国際水産資源研究所が測定した尾叉長、体重データを入手した。なお、尾叉長の測定は、三厩では漁獲された1,310尾中1,244尾、深浦では6,933尾中2,748尾、大間では3,211尾中1,503尾について行った。

### 2. サメ類

2013年1月～12月に調査対象とした八戸地区（図1）にある八戸みなと漁業協同組合及び(株)八戸魚市場の水揚げ伝票から、月別、漁法別、銘柄別の水揚げ量を取りまとめた。

## 結果

### 1. クロマグロ

#### (1) 漁獲状況調査

調査対象8地区全体の漁獲量は779トンと前年(777トン)並みであった。海域別にみると、日本海(岩崎、深浦、小泊)では459トンと前年(457トン)並み、津軽海峡(三厩、大間)では284トンと前年(261トン)の109%、太平洋(尻労、六ヶ所、八戸)では36トンと前年(59トン)の62%であった(図2)。

定置網を主体とした日本海の漁獲のピークは、深浦では6月に、岩崎では7月にみられた。釣り、延縄を主体とした小泊では7月と10月に、津軽海峡の三厩では11月に、大間では9月にみられた。太平洋側は他の2海域に比べて漁獲は少ないが、

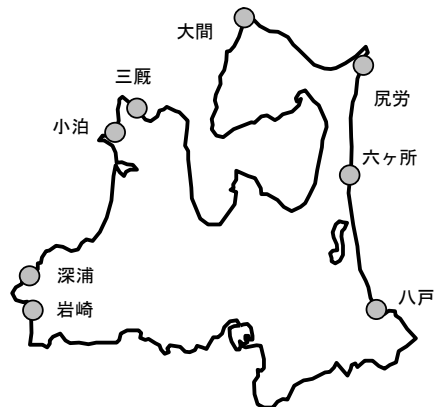


図1. 調査地点.

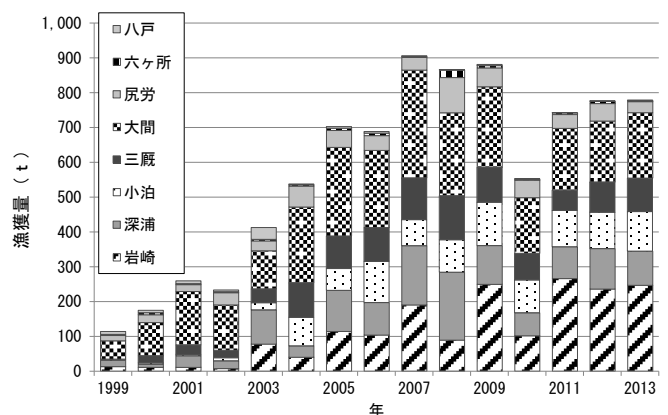


図2. 漁協別クロマグロ年間漁獲量の推移.

尻労は6月と11月に漁獲のピークがみられた(図3)。

(2) 生物測定調査

三厩、深浦、大間におけるクロマグロの尾又長を、図4に示した。三厩では150~180cm台、深浦では60~70cm台、大間では160~180cm台が主体であった。各地区の前年漁期の主な漁獲対象サイズは、三厩では150~180cm台、深浦では60~70cm台、大間では160~180cm台であったことから、いずれの地区においても、ほぼ前年並みの大きさのクロマグロを漁獲していたと考えられた。

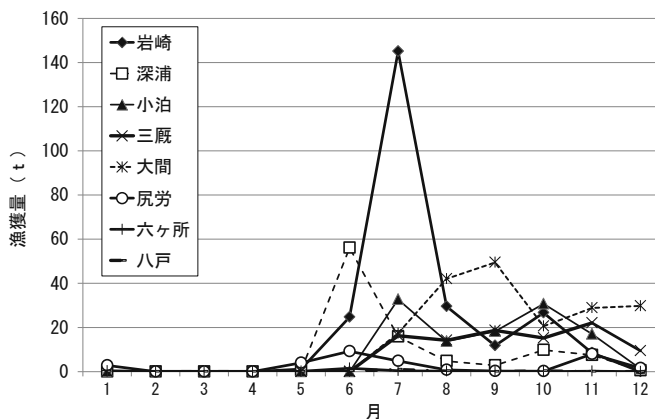


図3. 2013年の青森県沿岸8漁協におけるクロマグロ漁獲量の月別推移。

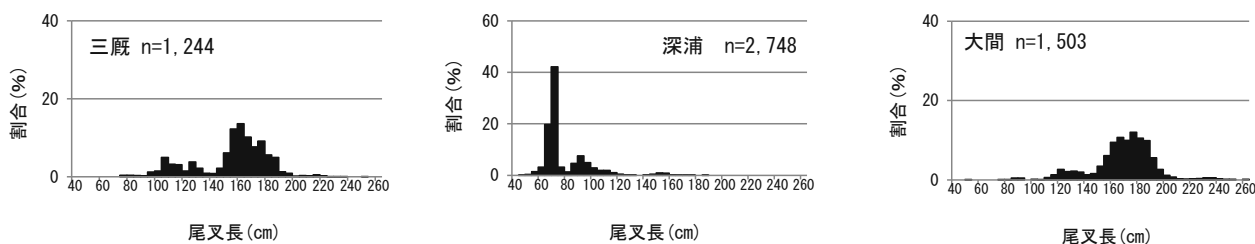


図4. 三厩、深浦、大間に水揚げされたクロマグロの尾又長組成。

2. サメ類

全漁獲量の99%をアブラツノザメが占め、そのほかネズミザメ等が少量水揚げされた。八戸のサメ類の漁獲量は、1995年から1999年は400~500トン台であったが、2002年から2006年にかけて100~200トン台と低迷した。その後漁獲量は2007年に増加し、以降は300~600トン台で推移した。2013年の漁獲量は486トンと前年(345トン)の141%であった(図5)。月別では、漁獲量は12~1月の冬季と4~6月の春季に多く、2013年は12月に167トンと最も多く漁獲された(図6)。

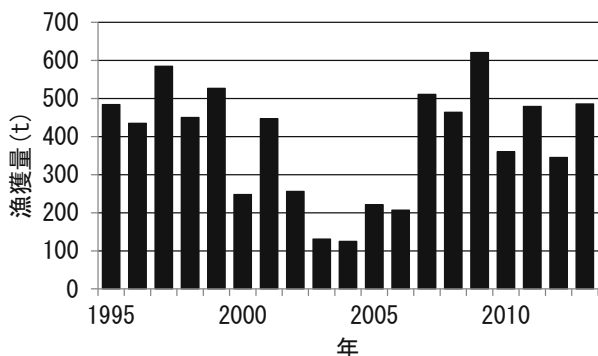


図5. 八戸で漁獲されたサメ類年間漁獲量の推移。

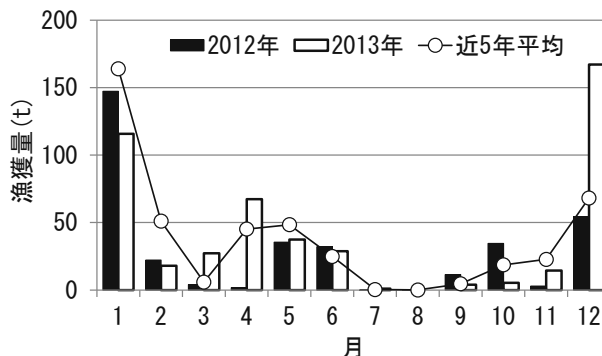


図6. 八戸のサメ類月別漁獲量の推移。